

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
戦略的原子力共同研究プログラム
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：船舶を活用した海上移動型放射線モニタリングシステムの開発（海の道からのアプローチ）</p> <p>代表研究者（研究機関名）：小田 啓二（神戸大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：小平 聡（量子科学技術研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：石田 廣史（大島商船高等専門学校）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：安田 仲宏（福井大学）</p> <p>研究期間及び研究費：平成27年度～平成29年度（3年計画） 66百万円</p>	
項目	要 約
1. 研究の概要	<p>陸上交通網が破壊されるような大規模自然災害時を想定し、安全システムの多重性（既存システムの補完）の観点から、船舶を活用した「海の道からのアプローチ」による放射線データ収集システムの開発を通して、現在の原子力災害対策の強化に関する提言をまとめることを目的とし、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 船舶を活用した新システムの設計 2) 船舶への海上前線基地機能の付加 3) 海上移動型モニタリングシステムの開発
2. 総合評価	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸側からのアクセスが限られている原発サイトも多いこと等から、陸上交通網が遮断されるような原子力災害時に、船舶を活用した放射線データ収集システムを開発しようという着眼点が評価される。 ・ 原発事故時の実行性のあるシステム構築のためには、海上輸送担当省庁との連携が不可欠である。そのため、そのような連携も含め、全国的な広がりのある組織的なシステムとするための検討を行って欲しい。 <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>